

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

愛知県小牧市 小牧市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透I未訓ガ	救臨が災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
153,096	44,459	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

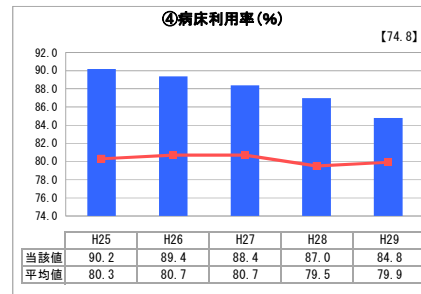
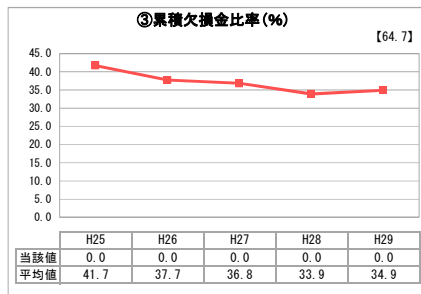
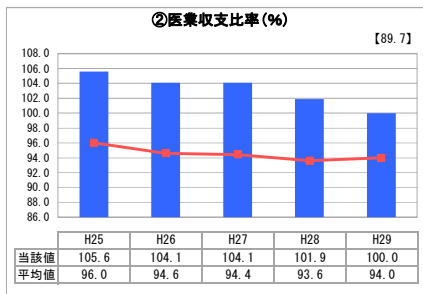
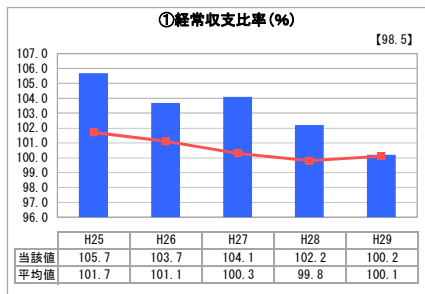
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 ガ…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
558	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	558
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
558	-	558

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [ ] 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性

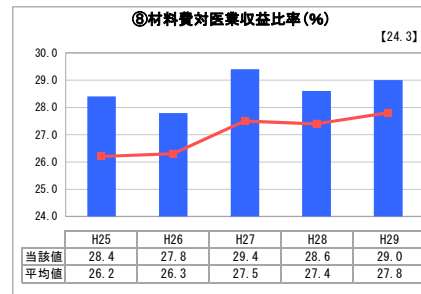
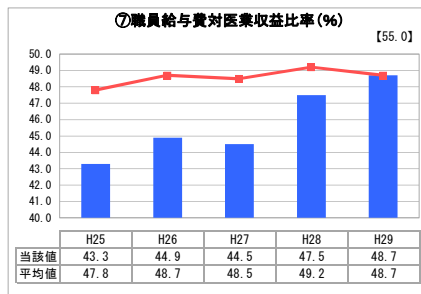
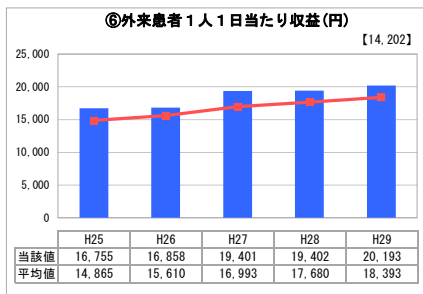
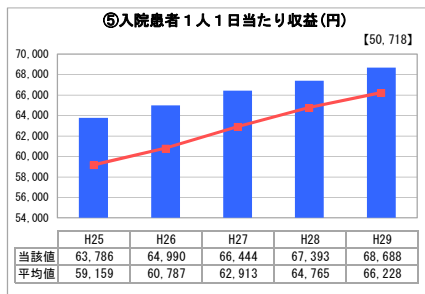


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



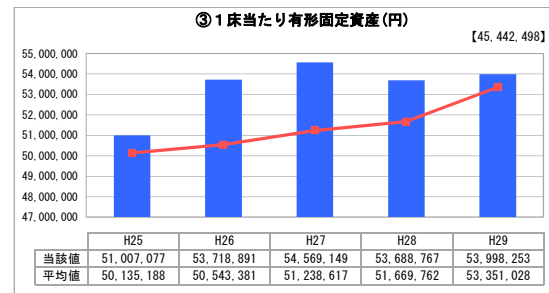
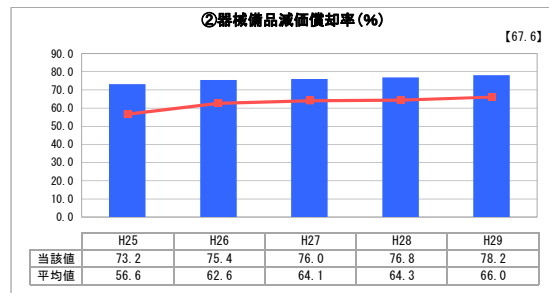
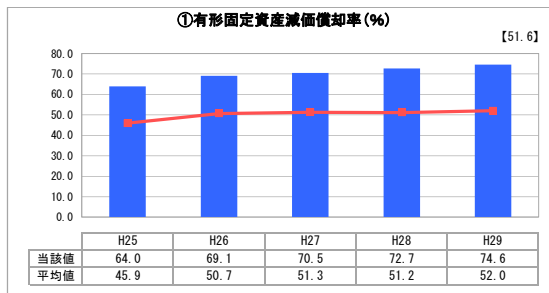
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「器械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

当院の役割は、尾張北部医療圏の中核病院として、救急医療、高次医療、がん診療を中心とした医療を継続的に行う高度急性期及び一般急性期における役割と、公的医療機関として、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供する役割である。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

厳しい経営環境の中、①経常収支比率及び②医業収支比率共に100%以上を維持し、③累積欠損金を出すことなく健全な経営状況を保っている。④病床利用率の低下については、地域医療構想に基づき重症患者を中心に受け入れ、また平均在院日数の短縮化に取り組んだ結果である。そのため、31年度開院の新病院では病床数を558→520とすることで、より効率的な病床の運用を目指す。⑤入院患者1人1日当たり収益は、比較的単価の高い診療科の患者数が伸びたこと、⑥外来患者1人1日当たり収益は新たに加算（外来放射線診断診療科）を取ったことにより前年を上回った。⑦職員給与費対医業収益比率について、積極的な医師数の確保に努めた結果、年度末比較で正規職員が7人増加したことによる。⑧材料費対医業収益比率について、高額な診療材料を使用する診療科の収益が増加したこと、依然高止まりしている。引き続きベンチマークを活用した交渉により材料費の低減に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

昨年に引き続き①有形固定資産減価償却率、②機械備品減価償却率及び③1床当たり有形固定資産の指標各々が平均値を大きく上回り、経年比較においても増加傾向にあり老朽化が進んでいる。ただし、当院は既に新病院建設に着手しており31年度に開院予定であるため、老朽化の状況については対処済み。新病院開院までに必要な修繕は随時対応していく。

### 全体総括

平均と比べて比較的良好な経営状況が続いているが、経年比較で経常収支比率及び医業収支比率が低下してきているので注視が必要。平成29年度決算は、平均在院日数の短縮化や地域医療機関との連携による専門治療や高次医療を必要とする患者の受け入れにより入院単価、外来単価を前年より更に伸ばし、地域医療構想に沿った病院経営の基盤ができてきた。反面、収益に対する費用の比率が年々高まっていることから、同一層の費用の削減が必要である。昨年度に立てた小牧市民病院改革プランの数値目標と29年度決算の結果を踏まえた評価委員会を開くことで今後の対応や、プランの修正を検討していく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。